

令和4年度

大学図書館職員長期研修

講義資料

国立大学法人筑波大学

令和4年度大学図書館職員長期研修講義資料 目次

令和4年度大学図書館職員長期研修実施要項 -----	1
令和4年度大学図書館職員長期研修日程 -----	2
令和4年度大学図書館職員長期研修科目概要 -----	3

講義名（日程順に掲載）	講師
1 大学経営の課題	吉武 博通 情報・システム研究機構監事 筑波大学名誉教授
2 大学と大学図書館	大隅 典子 東北大学副学長・附属図書館長
3 国立大学図書館の現状と課題	木下 聡 東京大学附属図書館事務部長
4 私立大学図書館の経営	久保 誠 国際基督教大学図書館
5 大学図書館職員の新たな役割	竹内 比呂也 千葉大学附属図書館長 及びアカデミック・リンク・センター長
6 大学評価と大学図書館	土屋 俊 大学改革支援・学位授与機構特任教授
7 大学図書館に期待するもの —高校教育との接続の視点から—	小野 永貴 筑波大学図書館情報メディア系助教
8 大学図書館と著作権	森 一郎 琉球大学附属図書館事務部長
9 国立情報学研究所の取り組み	竹谷 喜美江 国立情報学研究所学術基盤推進部次長
10 大学図書館と研究支援	池内 有為 文教大学文学部准教授
11 図書館経営学	小泉 公乃 筑波大学図書館情報メディア系准教授
12 民間企業の取り組み	松井 英明 株式会社 カスミ人事戦略部人事教育マネジャー
13 紙資料の劣化と保存	江前 敏晴 筑波大学生命環境系教授
14 アクティブラーニングの手法	益川 弘如 聖心女子大学現代教養学部教育学科教授
15 学術コミュニケーションの動向	小山 憲司 中央大学文学部教授
16 利用者の情報行動	逸村 裕 筑波大学図書館情報メディア系教授
17 誰もが利用しやすい図書館を目指して ～障害のある学生・教職員への支援～	飯塚 潤一 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター教授
18 大学図書館の学習支援	長澤 多代 三重大学情報教育・研究機構准教授
19 IIF によるデジタルアーカイブの提供と利活用 (新技術を活用した新たな図書館サービスの可能性)	永崎 研宣 一般財団法人 人文情報学研究所主席研究員

令和4年度大学図書館職員長期研修実施要項

1 目的

全国の大学図書館等の中堅職員に対し、学術情報に関する最新の知識を教授するとともに、図書館経営・情報サービスの在り方について再教育を行い、職員の資質とマネジメント・企画等の能力の向上を図ることにより、大学図書館等の情報提供サービス体制を充実させることを目的とする。

2 主催

筑波大学

3 期間及び会場

期間 令和4（2022）年7月4日（月）～7月15日（金） スケジュールは別紙のとおり（予定）

会場 オンライン形式による開催

4 受講者

(1) 資格

受講者は原則として次の各号のすべてに該当するものとする。

1-1 係長クラスで年齢35歳以上45歳以下である者（令和4年4月1日現在）

1-2 大学図書館等において専門的業務に8年以上の経験を有する者

1-3 所属大学（機関）の長が推薦する常勤図書館職員

なお、受講にあたっては全日程へ出席可能であるものとして推薦すること。

(2) 定員

約30名

5 研修申込及び受講者の決定

(1) 申込み方法

各大学（機関）の長は受講希望者についてとりまとめ、別紙様式により令和4年4月22日（金）（必着）までに、筑波大学長あてに推薦すること。

(2) 受講者の決定

前項により推薦された者の中から応募・推薦理由等を考慮して受講者を決定し、各大学（機関）の長に通知する。

6 研修科目及び講師

別紙のとおり（予定）

7 研修の方法

各講義は、同時双方向形式で行う。

1時限を90分とし、講義・演習を行う。あわせて事前・事後課題の提出等を課す。

8 経費

オンライン受講にかかる経費（インターネット環境および接続機器等）は、受講者所属大学（機関）が負担する。

9 修了証書

この研修において所定の課程を修了した者には、修了証書を交付する。

令和4年度大学図書館職員長期研修日程

7月		午前		午後					
		9:00～10:30		10:50～12:20		13:40～15:10		15:30～17:00	
4	月	受付(9:00-9:30)	開講式 (9:50-10:00) 文部科学省講話 (10:00-10:30)	大学経営の課題 吉武 博通 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 監事		大学と大学図書館 大隅 典子 東北大学副学長・附属図書館長			
		オリエンテーション (9:30-9:50)		国立大学図書館の現状と課題 木下 聡 東京大学附属図書館 事務部長		私立大学図書館の経営 久保 誠 国際基督教大学図書館			
6	水	大学評価と大学図書館 土屋 俊 大学改革支援・ 学位授与機構 特任教授		大学図書館に期待するもの —高校教育との接続の視点 から— 小野 永貴 筑波大学 助教		新たな取り組みの創出・実践ワークショップ			
7	木	新たな取り組みの創出・実践ワークショップ							
8	金	新たな取り組みの創出・実践ワークショップ							
9	土								
10	日								
11	月	大学図書館と著作権 森 一郎 琉球大学附属図書館 事務部長		国立情報学研究所の 取り組み 竹谷 喜美江 国立情報学研究所 学術基盤推進部次長		大学図書館と研究支援 池内 有為 文教大学 准教授			
		図書館経営学 小泉 公乃 筑波大学 准教授		民間企業の取り組み 松井 英明 株式会社カスミ		班別討議			
13	水	紙資料の劣化と保存 江前 敏晴 筑波大学 教授		アクティブラーニングの 手法 益川 弘如 聖心女子大学 教授		班別討議		班別討議	
14	木	学術情報コミュニケーション の動向 小山 憲司 中央大学 教授		利用者の情報行動 逸村 裕 筑波大学 教授		班別討議 発表		班別討議 発表	
15	金	誰もが利用しやすい図書館 を目指して～障害のある 学生・教職員への支援～ 飯塚 潤一 筑波技術大学 教授		大学図書館の学習支援 長澤 多代 三重大学 准教授		IIFによるデジタル アーカイブの提供と利活用 (新技術を活用した新たな 図書館サービスの可能性) 永崎 研宣 一般財団法人 人文情報学 研究所 主席研究員		閉講式 (15:30- 15:50)	

会場：オンライン形式(Zoomを予定)

令和4年度大学図書館職員長期研修科目概要

1 研修概要

A 図書館マネジメント総論 7科目 (7コマ)

大学図書館を取り巻く経営的環境を把握するとともに、大学図書館マネジメントに関する知識を養う。

B 学術情報流通等各論 12科目 (12コマ)

学術情報に関する最新の知識を講義し、大学図書館サービスのあり方を考える。

C 演習・班別討議 16コマ

企画立案・遂行力、コミュニケーション能力の向上を図るための講義・演習を行い、班別討議、発表を通してその実践を行う。

2 科目概要

A 図書館マネジメント総論

(1)大学経営の課題

大学図書館の活動は、あくまでも大学経営の一部として捉えられなければならない。大学図書館経営の背景となる大学経営について講義する。

(2)大学と大学図書館

大学や大学図書館を取り巻く現状や今後の方向性について、ステークホルダーとの関係や政策的視点から講義する。

(3)国立大学図書館の現状と課題

国立大学図書館の管理・運営を担う管理職の立場から、今日の大学図書館が抱えている重点課題を取り上げ、その解決に向けた取組みなどについて講義する。

(4)私立大学図書館の経営

私立大学図書館の経営について、アウトソーシング、予算獲得、サービスの展開等について事例をもとに実際の観点から講義する。

(5)大学評価と大学図書館

国・公・私立大学（短期大学を含む）は、7年以内ごとに、認証評価機関の実施する評価を受けることが義務付けられている。その評価の実際と大学図書館がどのように評価に寄与すればよいのかを考える。

(6)大学図書館職員の新たな役割

日本及び海外大学図書館における図書館職員の役割、その特徴や問題点、今後の新たな役割や将来像、展望などについて講義する。

(7)図書館経営学

経営戦略やマーケティング等の経営学の基礎知識、また、それらを図書館に適用する場合の特性を講義し、大学図書館経営のあり方について考える。

B 学術情報流通等各論

(1) 国立情報学研究所の取り組み

国立情報学研究所の推進する様々な事業の中から、大学図書館と関わりの深い、オープンアクセス・オープンサイエンス普及の取り組みや、これからの学術情報システム構築等について講義する。

(2) 利用者の情報行動

情報行動論の基礎的知識、教員や学生の情報行動の具体例、情報行動に配慮した図書館サービスのあり方などについて講義する。

(3) 学術情報コミュニケーションの動向

近年の電子情報資源への急速な移行や、機関リポジトリ、オープンサイエンス等の動向を踏まえ、今後の学術情報コミュニケーションのあり方や展望について講義する。

(4) 大学図書館と研究支援

大学図書館は大学の研究活動にどのように貢献できるのか、学術情報流通の動向や海外の事例等から、その可能性を探る。

(5) 大学図書館に期待するもの

大学教員としての立場から、研究手法、研究資料の収集・活用方法、学生の指導方法等について述べると共に、大学教員が求める図書館、資料、図書館のあり方について講義する。

(6) 大学図書館の学習支援

大学図書館の学習支援のあり方について、大学での学習の変化をふまえた上での情報リテラシー教育の検討、授業と図書館利用の関連付け、教員との連携などについて講義する。

(7) アクティブラーニングの手法

教育の現場では、アクティブラーニング（能動的学習）への転換が大きな話題となっている。実際にアクティブラーニングを体験し、その概略を知ることで、教員や学生への支援のあり方を考える。

(8) 誰もが利用しやすい図書館を目指して～障害のある学生・教職員への支援

図書館の資料・サービス・施設を利用することが障害等により困難な学生・教職員に対して、それらの障壁を取り除くにはどのような配慮をすべきか、制度面、実際面から講義し、誰もが利用しやすい図書館づくりについて考える。

(9) 民間企業の取り組み

大学図書館運営に関連する民間企業等の最新の取り組みや、図書館運営の効率化、サービス向上の参考となる民間企業等の経営戦略・経営手法について講義する。

(10) 新技術を活用した新たな図書館サービスの可能性

最新の情報通信技術を活用した新たな図書館サービスの事例を学ぶことにより、これからの時代の図書館サービスのあり方や可能性について考える。

(11)紙資料の劣化と保存

大学図書館における紙資料の保存方法や利用上必要な配慮などについて講義する。

(12)大学図書館と著作権

大学図書館活動に関する著作権法の基本的な考え方、また、インターネットの普及や学術情報流通の変化に伴う新たな動きと今後の方向性、展望などについて講義する。

C 演習・班別討議

1 演習

環境変化に対応した新たな取り組みを創出・実践する力を、ワークショップ形式の演習を通して身につける。

2 班別討議

(1) 班別討議

国立大学図書館協会ビジョン 2020 および 2025 の大学図書館の基本理念を達成するための新たな取り組みについて討議する。具体的な取り組みの実践を念頭において、企画書作成、発表準備を行う。

(2) 発表及び全体討議

班別討議で検討した、新たな取り組みを発表する。各班の発表をもとに全体討議を行う。